

社会背景・理念に関するもの

現ビジョンの考え方

- ゼロをプラスにするような活動とマイナスをゼロにするようなものをハイブリッドで施策として組み立て、好循環により効率的な施策を実現していくという発想で今の施策の提案が出てきた
- 多様な人々が住んでいる、多様な地域があるというようなことを重視して、その中で魅力を発見するとか、その多様性を重要視しながら魅力を創出するとかいうようなことを考えなければいけない
- 定住人口だけでなく、交流人口をできるだけ増やして、そして人の活動が高まるということによって、魅力が高まっていくという、そういう居住概念を人の移動ということも含めて拡大していくという議論があった

世帯の多様化

- 人々の多様性が重要。世帯の規模についてどういう視点で入れているのか疑問
- 現在の府の政策も、世帯を単位にした施策がベース。今後また議論させてもらえれば
- 単身者が増えれば固有のニーズが出る。必要とされる環境が異なってくると思うのでその辺りも検討いただければ
- 大阪での最も一般的な世帯は単独世帯であり、居住形態を一体どういう風に捉えればいいのか大きな課題。今後も議論を
- 単独世帯が大阪府全体だけでなく、どこでどう増えているという地理情報と融合させた分析が必要。
- 単独世帯の増加、世帯の多様化について、まちづくりを考えていくことが必要。
- 多文化化を実際どう支えていくかという論点になると思うが、きちんとした現状の把握や分析が行われておらず、何をすべきかが明解になっていないのではないか。
- 世帯の多様化に対してどう住宅のオルタナティブを供給していくのかということが、包括的なテーマとして上げられるのではないかと。
- 経済的な貧困と住宅政策、子供の貧困の問題も含めて指摘をいただいた。論点としては、安全の問題、あるいは世帯、人口問題と関連させて扱う可能性もある。
- 貧困や、ひとり親、高齢化などの問題など厳しい状況の中で必死に生きている部分に対してのまちづくりの関係が気になる。
- 都市活動の基盤となるような社会・生活を支える部分の仕事をしている在留外国人の方々や、そのお子さんたちの教育環境などは相当厳しい状況であり、その方々が暮らしやすい都市はどのような機能を備える必要があるかについても、具体的な検討が必要では。

社会の動き

SDGs

- 貧困、健康、環境、住む、多様性は全てSDGsの項目であるため、SDGsの観点から議論を進めたい。
- 持続可能性、建てかえの問題、人口減少と高齢化、老朽化マシジョン、建物の老朽化がテーマに入ってくるが、1の論点の中に組めるか、別立てにするか議論していきたい。また、SDG sの中にいれるか、それを打ち立てるかは、今はまだわからない。

縮小していく社会

- 縮小していく社会における地方のあり方とそれをつないでいくというのが大阪府の大きな役割だと思う
- 活用する一方で縮小していかなければいけない部分もあると思う
- 住宅の数の縮小を機会に健康であったり、高齢者や障がい者の方に優しいまちの作り方ができる機会だと捉えて、前向きに施策を打っていくことが大事
- 地域に住むということが非常に重要なので、都市空間を含めた議論をしてもらうことで、居住ということを中心としてまとまるように
- 縮小していく社会は、とても重要な社会的な背景だと考えている。
- 全体に通じるが、人口減少がわかっていて、どのように縮小していくのかを、どう捉えるかということを考えなければいけないのではないか。
- 縮小というものを機会に、縮小をどう前向きに捉えて施策を打っていくのかということを考えている。

人口の移動

- 移動について、大都市の特徴的な流入・流出が見られるようなデータがあれば、大阪府全体が抱える問題を相対化して捉えることができるのではないかと。
- 人口の動態分析に基づいて戦略を考えることや、それを課題にすべきではないかという御意見。
- 都市部への人口集中、シュリンクに伴う都市部の人口増が、部分的に起こっているということも頭に入れて置きたい。
- 人口の増減や世帯の変化というものを大阪府として一括して捉えるだけではなく、地域ごとのデータの収集や、地域特性がわかる統計調査、データ分析をするという提案に賛同。
- 高齢化率もどこが高いのかということが問題であり、地理的な特性を踏まえて議論することとしている。
- 住まいを選んでいるのではなく、選ばれていると強く感じている。供給する側の住宅の市場側の動きを知りたい。

目標・方針・指標に関するもの

国内外から多様な人々を惹きつける住まいと都市

生き活きとくらすことができる住まいと都市

環境にやさしく快適にくらすことができる住まいと都市

安全を支える住まいと都市

安心してくらすことができる住まいと都市

様々な分野・主体との連携

- 商業と住宅の循環をつくるためにそれぞれから何をやるのかという視点もあるのではないかと

民間による主体的・主導的な取組みを推進

- 住宅政策全体としては民間の力が大きく作用しているのではないかと
- 現在は住宅市場全体を視野に入れた住宅政策を考えていかなければいけない

ストック・ポテンシャルの活用

みんなできずらうの全般

- 審議会は、そもそも施策として空回りしていないのかと、あるいはうまくいって両立して、あるいは好循環が高推移で向かっているかということの評価しながら今後のあり方を御検討いただくというような役割はある
- これでこのビジョンの評価が数値でできるかという、かなり限界があるので、評価の方法については引き続き議論が必要
- 人口動態や世帯動態を見据えた数値目標があまり扱われていないという印象

好循環の評価手法

- ゼロをプラスにする施策を重層的に組み、ある施策をすることで多分野の課題を解決できる方向性の評価の仕方を新たに生み出す必要があるのでは
- どれかモデルケースとして新しい評価の指標設定と把握の仕方をして、それを次の施策に繋いでいくという政策の循環のモデルを作るよというのでは

鳥の目の評価・虫の目の評価

- 空家の活用などミクロなところで問題をどう解決してきたのかを把握した方が、より次の施策に繋がるのでは
- 鳥の目で見ると評価だけではなく、虫の目で見ると評価もこの中に取り組んでどうかというご提案
- 個別のケースについて府の施策として議論していく形になってくると審議会委員もできるかぎり現地に行き、現場を見て考えるということも必要と思う

施策に関するもの

GDと住まいのあり方

- 「ランドデザイン大阪都市圏」では住宅施策とそのまま結びつけた記載にはなっていない。ここに住まいのあり方も一緒に書き込むような方向性があるべきではないかと

情報発信

- 流入人口の方々へ、ここが住みやすいといった宣伝が不足している。
- まちづくり情報、住宅・住まい情報が、どのような形で住民に発信されるのかに問題意識をもっている。

空家

- 空家の定義を含めて、もう少しきちんとした議論をしなければいけない
- 近年では、投資目的の住宅で、居住者のいない住宅の問題もある
- 今後の住宅供給の中で空き家について意識する必要があるのでは。
- 今、空き家が多いため、それをまずどうするかを考えてはどうか。
- 中央に通路、外側に部屋というような危険な住宅が大阪府にまだまだ残っており、文化住宅もほとんど補修されず、たくさん空き家を抱えて存在している。

マンション

- マンションは民間の区分所有住宅の管理、賃貸住宅は維持管理と民間の賃貸住宅ストックの問題ということで、大都市で多い集合住宅のストックの維持管理問題という一つのテーマにして議論してはどうか。
- 既存マンションの耐震対応だけでなく、再生をどうやって円滑に進めるかという大きな論点として議論したほうが良い。

子育て支援

- 公営住宅は低所得ゾーンを構成し住宅政策と育ちの関係が上手くかんでいない
- 単に住宅だけでなく、保育施設などの施策の表記があればわかりやすいと思う
- 府外からの小さな子供を持った働き手に提供できるサービスがあると良い

省エネ基準

- 省エネ基準は最低基準であり、さらに上を目指さなければいけない。公的機関から上を目指すような指針を提示してはどうか

住まいと健康

- 断熱改修が必要な住宅について、建造年や種類などをベースに、どう住宅が多く、それぞれの断熱性能がどれくらいであるのかという現状を把握した上で、健康増進のための熱環境向上の断熱改修政策をするには、どこに重点を置くべきかという方向性を整理されてはどうか。
- 例えば住宅の修理、築年数だけでなく、居住者特性として所得、年齢、家族構成も含めて分析し、どういった人が住まうところを重点的に支援するかという方向性に繋がらなければいけないと思う。

密集市街地対策

- 地域の方のご理解や現状の共有というものが無いと進みにくいのではないかと

災害への備え

- 重点密集市街地についても、被害をみたらうで、次の地震に備えようとするかということ、きちっと整理を必要があると思う。
- 持ち家の耐震改修は様々な補助制度があるが、賃貸にはあまり制度がなく、耐震化をどう進めていくのかという課題もある。

事後対応

- 阪神・淡路大地震の対応も踏まえ、応急危険度判定等や住宅支援を再度きっちり見直してみてもどうか。

居住支援

- 他の県でもセーフティネット法の登録はオーナーにはメリットがあるものではなく、本当に円滑に登録されるのかという議論をした
- 空家を利用することで、画一的なものにならず地域のコミュニティを大切にまちづくりを再生できる
- 居住支援協議会を活性化し様々な問題をもう少し深めてもらえれば

- 同和地区は、非常に高齢化が高く、貧困の問題も含めたまちづくりをしていく必要がある

新たな課題

健康とまちづくり

- まちづくりの目標は健康だと言うご指摘も、ほぼ同じ
- ハイブリッド型で居住の魅力を上げるということに健康が大きく関連してくるのでは
- 政策の評価指標の中に健康という視点を取りこめないかというご提案
- まちづくりの目標は健康とあるが、健康づくりとまちづくりはほぼ重なっているというふうに考えたほうが自然である。

- 以下については、すでに健康についてのエビデンスがある。
  - 公園、まちのあり方
  - 地域が活性化による、災害復興のスピード
  - ソーシャルキャピタルとの関連
- みどりの多いまちが心筋梗塞で亡くなる率
  - どういうまちが歩数が多いか

- 現時点で日本における住まい・まちづくりと健康の関係についてのエビデンスは多くない。
- 健康は必ずしも病気でない状態ではなく、安心や安全、生きがいという点から健康というのを捉えて考えたほうが良い。
- 貧困、高齢化、多様性については、既に健康づくりにおいて議論となっている。
- 健康は今までターゲットとしていなかったことに加え、まちづくりには道路や公園も入るので、どう区分けしていくのかがなかなか難しい問題であるという感想を持っている。
- どんなコミュニティで健康が悪化して、どうまちを変えれば健康がよくなるのかについても、他の部局と連携した分析が必要。

手法

- 厳密にいろいろな状況をエビデンスとして見るには、地域ごとのデータではなく個々のデータが必要。

- 今年度は住宅・土地統計調査が実施されるが、府内の住宅の所有形態に加え、入居者の所得状況などが出てくるので、考える前提として基本データ等も含めていただきたい。

- 大阪府の中でも地域特性がある。総量だけでなく、ある程度分類や地域特性がわかるようにデータ分析をしていただきたい。

- テーマに関わらずできる限り地図でデータを示していただきたい。